

中間支援活動助成事業 実績報告

団体名	特定非営利活動法人 シンフォニー	代表者名	代表理事 山崎 勲
事業名	<基本事業> 持続する組織づくり支援 <企画立案事業> 地域 NPO ブラッシュアップ事業		

<事業実施実績>

基本事業

年 月 日	活 動 内 容
H27 年 4 月～H28 年 3 月	相談事業：一般相談事業（NPO 向けの支援：随時） 専門家による相談（会計・税務/起業運営相談）
H27 年 4 月～H28 年 3 月	情報提供事業（ホームページ：随時）；（メールマガジン：月 2 回）；チラシをまとめて配布（市内 10 か所程度）
H27 年 10 月～H28 年 2 月	人材育成事業： ・ NPO のためのマネージメント力強化セミナー（1 回） ・ NPO ブラッシュアップセミナー（3 回）
H27 年 4 月～H28 年 3 月	書類作成指導 申請書等の作成に関する指導・助言（随時、全 16 回）
H27 年 5 月～H28 年 3 月	ボランティアマッチング ・ 地域 NPO 活動のボランティア（随時） ・ 学習支援ボランティアマッチング（3 か所各週 2 回）

企画立案事業

平成 28 年 5 月 20 日（金）	広域連携（近畿 2 府 4 県の「中間支援組織」の連絡会 ≪5・20 緊急報告会≫ 「熊本地震」支援活動の現状と課題 ～発災から 1 ヶ月、関西からの支援を考える～ 会 場：近畿ろうきん肥後橋ビル 4 F 大会議室
平成 28 年 9 月 16 日（金）～9 月 19 日（月）	こども支援、障害者支援、高齢者支援の 3 グループに別れて熊本地震被災地の復興状況の視察ツアーを 3 泊 4 日で行った。地元団体との交流、情報交換等を行った。8 団体 28 名が参加。
平成 29 年 1 月 13 日（金）	災害弱者シンポジウム_熊本地震に学ぶ 会 場：近畿ろうきん肥後橋ビル 4 階・G 会議室 内容：熊本県内の障害者支援 NPO 法人「にしはらたんぽぽハウス」等被災地 3 団体からの報告 44 人が参加
平成 29 年 3 月 18 日（土）	テーマ別連携・生活困窮者自立支援団体の連携 阪神地域を中心に 9 団体で構成する「就労支援団体連絡会」で月 1 回の例会を開催。 全国各地で生活困窮者自立支援法が施行され 2 年が経過する中、この制度の活用から地域の資源を活かした取り組みや、地域間の連携が生まれるなか様々な社会の課題を柔軟に支えている。そこで、近隣都市をはじめ、全国各地の皆様と手をむすび、あらゆる方法で生活に困窮する方や悩みを抱える市民の支援

	モデルをつくり出していくための研究会を開催致した。 会場は、伊丹市立地域福祉総合センター いきいきプラザ。参加者約 100 名。
平成 28 年 5 月 7 日 (土)	地域団体・商店街と NPO との連携 グループホーム建て貸し方式 対話集会 ・第 1 部 13:30~14:50 「障害者にとって快適なグループホームと建て貸し方式」 中村孝彦 氏(積水ハウス株式会社 プラチナ事業課)に聞く ・第 2 部 15:00~17:00 グループホームなんでも個別相談会 積水ハウス他 会場は、シンフォニー研修室(阪神尼崎駅前 土井ビル)、参加者は 14 団体、40 名が参加。
平成 28 年 11 月 12 日 (土)	グループえがお(子育てグループ)との共催で、子育て支援のハロインフェスタを行った。 会場は、シンフォニー研修室(阪神尼崎駅前 土井ビル)、参加者 60 名。
平成 28 年 12 月 11 日 (日)	クロスロードをつかい、災害時の行動をみんなで考え、日常活動に活かすトレーニングを開催した。第 1 部熊本地震の視察報告、第 2 部クロスロード 会場はシンフォニー研修室(阪神尼崎得前)。20 名が参加。
平成 28 年年 12 月 17 日(土)	今年は、「尼崎 100 年を振り返り、次の 100 年に繋ぐ」をテーマに、生涯の中でのセミナーや、商店街を 1 つの会場にした「街の忘年会」等を企画して実施した。特設ステージや商店主らが多数出店。杭瀬銀座商店街振興組合との共催という形で行った。参加者は約 500 人

<効果と成果>

(基本事業)

市民活動のインフラが弱体化し、地域活動の担い手が不足している現状を捉え、テーマ型 NPO と地縁型地域団体の連携システムづくりを進めた。

具体的には、NPO 設立運営支援、地縁団体向け支援(認可法人の設立、地域祭り等の事業計画)等の一般相談をはじめ、税理士、社労士等による専門性をもった相談事業を実施し事業計画づくり、報告書作成支援により信頼関係を構築ことができた。

また、上記成果をさらに進めるために、事務支援や事業支援を強化し、地域の連携強化を図っていきたい。

(企画立案事業)

阪神・淡路大震災からの復興の経験や中間支援団体としての経験は、広域連携で活かされている。今後、経験・ノウハウをより広く提供していきたい。また、貧困と格差問題や、障害者・高齢者の住まい問題、子育て・教育支援の分野では企業を巻き込んで、支援体制をつくってきたい。

一方、地域では「NPO と地縁団体との連携」のモデル作りが急がれている。商店街等媒介し、このモデルを作っていきたい。

<収支決算書>

[基本事業]

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
自己資金	18,123
合 計	518,123

(支出)

区 分	項 目	金 額 (円)	左のうち助成対象 金 額 (円)
直 接 経 費	人件費	280,897	270,000
	謝金	118,000	118,000
	旅費交通費	9,160	9,160
	小 計	408,057	397,160
間接経費 (一般管理費)		110,066	102,840
合 計		518,123	500,000

[企画立案事業]

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
自己資金	2,325
合 計	502,325

(支出)

区 分	項 目	金 額 (円)	左のうち助成対象 金 額 (円)
直 接 経 費	人件費	280,897	280,897
	会場費	52,820	52,820
	謝金	32,000	32,000
	その他 (印刷製本費等)	27,760	27,760
	小 計	393,477	393,477
間接経費 (一般管理費)		108,848	106,523
合 計		502,325	500,000